

# 岐阜県農業技術センターニュース

No.61

## 植調剤によりクリスマス出荷も可能なフランネルフラワーの新品種 「エンジェルキュート」を育成（花き部）

フランネルフラワーは、オーストラリア原産のセリ科の多年草で、花弁のように見える総苞片(そうほうへん)が毛織物のフランネルと同じ触感であることから名付けられました。当センターでは、世界に先駆けて鉢花用品種や有色(黄色)品種を育成しており、これまでに、鉢花6品種および切花4品種を育成しています。

育成した新品種の「エンジェルキュート」は、白色の幅広な花弁を持つ中輪で、茎数が多く、また、茎が剛直なため切花および鉢花の出荷が可能です。咲性は春一季咲性ですが、花芽形成を促進する植物成長調整剤の処理により出荷時期をコントロールでき、需要に合わせ秋冬時期の出荷も可能です。

本品種は中輪で花弁の幅が広く、花と蕾が多いところが“かわいらしく”、親品種が「エンジェルスター」であることから「エンジェルキュート」と命名しました。

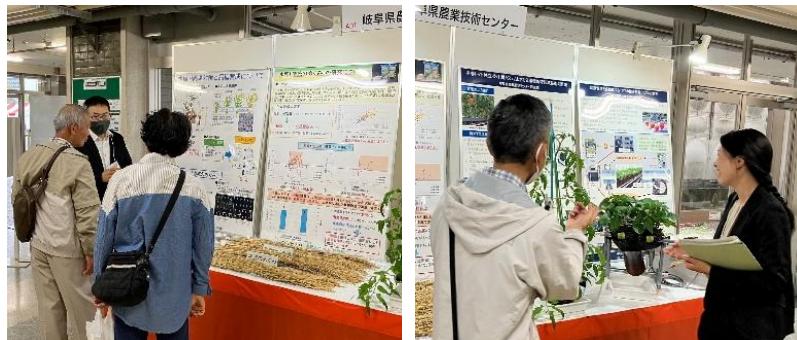


エンジェルキュート

## 農業フェスティバルにおいて研究成果を紹介しました

岐阜県内の農畜水産物や特産品が勢揃いする、食と農の一大イベント『農業フェスティバル』が令和7年10月25日～26日に開催され、OKB清流アリーナ内において研究成果の展示を行いました。

作物部から「水稻の高温対策と品種育成」など、野菜部から「給液管理を自動化するイチゴの給液制御システムの開発」などを紹介しました。



農業技術センターの展示ブースの様子

## 日本土壤肥料学会 技術奨励賞を受賞しました

当センター土壌化学部の和田巽主任専門研究員が、日本土壤肥料学会2025年度新潟大会の会期中である令和7年9月18日に第14回日本土壤肥料学会技術奨励賞を受賞し、記念講演を行いました。

「土壌診断に基づく適正施肥を推進するための生産現場適用技術の開発」に関する研究成果が高く評価されたものです。

今後とも、現場に役立つ技術開発を目指してまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願いします。



# 小型送風機(ブロワー)を用いた微生物農薬の省力化散布技術を開発しました(病理昆虫部)

一般的な病害虫防除作業では農薬を水で希釈して散布する必要があるため重労働となり、薬液調整や機器の洗浄も必要なことから多くの作業時間を要します。そこで、市販のブロワーを利用し、微生物農薬を粉状のまま散布する技術を開発しました。

現在は、現地普及およびブロワー散布専用ノズルの市販化に向け、各地のトマト圃場でデモ機ノズルを用いて試験を実施しています。

## 特徴

### ◎トマトにおける重要病害虫を防除可能

ボタニガード水和剤やバチスター水和剤を約7日間隔で複数回ブロワー散布することにより、コナジラミ類やトマト灰色かび病を防除できます。また、両剤を混合してブロワー散布することにより、コナジラミ類と灰色かび病を同時に防除できます。



微生物農薬を粉状のまま散布

### ◎薬剤抵抗性の発達リスクを回避可能

微生物農薬の使用により、病害虫防除における薬剤抵抗発達リスクを回避できます。



市販ブロワーに接続した散布専用ノズル（デモ機）

### ◎簡易かつ省力的な防除が可能

水を用いた薬液調整が不要なため、散布器具は軽量で、防除作業の負担が軽減できます。

## 若者未来デザイン会議 事前農業体験を実施しました！

県では未来を担う子どもや若者と知事が、県政や社会課題などについて意見交換を行う「若者未来デザイン会議」を開催し、第3回は令和7年8月6日に岐阜総合学園高等学校で開催されました。その開催前の7月22日に当センターにおいて、岐阜総合高等学校生参加による農業体験が行われました。

体験内容としては、果樹栽培の除草作業について、従来技術（除草剤散布器等の利用）とスマート農業機械の利用による最新技術を体験するとともに、水稻における品種開発の紹介や水田での病害虫防除に用いるドローン実演を行いました。



水田でのドローン実演



除草剤散布器の体験（右上）



リモコンおよびロボット草刈機の体験（右）

## ★★★★★ 令和7年度 試験研究成果検討会のご案内 ★★★★★

本年度は、以下のとおり開催を予定しています。詳細は後日、当センターのホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

○開催日：令和8年2月26日（木） 場所：センター3F講堂（対面での開催予定）

